

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立上尾鷹の台高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校として目指す方向が簡潔に示されている学校像である。学校に寄せられる期待をより広く把握・分析し、学校の特色や強みを更に生かし、現状から一步踏み出した学校像となるように工夫していただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	目指す学校像を踏まえ、開校当初から3年間を一区切りとして取り組んできた中期構想（現在は「第2期鷹の台プラン」を実施中）を更に重点化して重点目標が設定されている。地域の期待、生徒の学力、生活や進路の実態などを踏まえ、学校の取り組むべき課題に対応した目標である。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校自己評価システムを運営する組織が有効に機能している。組織マネジメントの工夫の一つとして、学校が重点的に取り組んでいる具体的な方策を推進する組織が委員会である場合にあっては、その委員会の活動が見えてくるようなシートを作成すると更に良い。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	「朝読書」を通じた学習習慣の確立や、「キャリア研究ノート」の活用によるキャリア意識の向上など、重点目標達成のための組織的・計画的な取組が見られる。評価指標については、取組指標と成果指標をうまく組み合わせると分かりやすいものを工夫すると更に良い。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	「鷹の台プラン」に見られるように、校長が学校の中・長期的な課題を析出し、組織的に取り組んでいる。校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深め、課題の解決に向けて、学校全体として更に組織的に取り組むことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートなどを実施し、学校自己評価のための情報が収集されている。学校改善のための取組により蓄積された成果について教職員間で共通理解を深めることを継続するとともに、例えば仮説を設定してアンケートを実施するなど、次の改善に向けた課題を明確にするための工夫を進めると更に良い。	
特記事項			